

お得に便利に安全に インターネットバンキング活用術

日常生活の中にインターネットがますます普及してきています。インターネット上で銀行取引を行うインターネットバンキングについても活用法をぜひ知っておきたいもの。安全に、そして上手に使いこなせると、生活が便利でお得になります。

日本ではサービス開始から約20年

日本で最初にインターネットバンキングのサービスを開始したのは大手都市銀行。1997年のことでした。3年後の2000年には日本初のインターネットバンキングを専業とする銀行も開業しています。サービス開始から約20年。今では地方銀行や信用金庫などにも広がり、預金を取り扱う金融機関の多くでインターネットバンキングが利用できます。インターネットバンキングの魅力は、なんとといっても金融機関の窓口やATMに出向かなくても取引ができること。自宅のパソコンや、外出先からでもスマートフォンを使って取引

できます。また、営業時間を気にする必要はありません（取引によっては翌営業日の取り扱いになりますが、申し込みは可能）。

さらに金利や手数料面でも金融機関窓口での取引に比べて魅力的となっています（図表1）。

一方、多くの金融機関がインターネットバンキングを取り扱う現在では、サービスの内容にも金融機関の間で違いがみられます。自分にあったサービスを提供するインターネットバンキングを見つけ、賢く安全に活用しましょう。

インターネットバンキングには3つのタイプ

インターネットバンキングのサービス提供の仕方には大きく

3つのタイプがあります。それぞれの特徴をご紹介します。

●都市銀行や地方銀行などが提供する取引サービスとしてのインターネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫などでは、窓口やATMと並行してインターネットバンキングのサービスを提供しています。顧客は、自分の口座を使つたいろいろな取引を窓口やATMで行ったり、インターネットバンキングで行ったりと使い分けることができます（ただ、口座を持つていても、新たにインターネットバンキングを利用するには別途申し込みが必要です）。

●インターネット支店でのインターネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫の一部では、このほかにインターネットバンキング専用の口座を対象にしたサービ

インターネットバンキングでの取引は人件費などが少なくすむ分、同じ取引を行うのでも窓口やATMでの取引に比べて手数料が安いのが一般的です。すでに生活口座として使い慣れた口座がある人で、口座振替をよく行う人にはインターネットバンキングが向いているでしょう。

坂本 綾子（さかもと あやこ）

CFP®/1級FP技能士。大学在学中より雑誌の編集に携わり、卒業後に取材記者として独立。1988年より女性誌、マネー誌などで金融に関する記事を執筆。家計管理、保険、資産運用に関する記事をはじめ、銀行の商品・サービスについても雑誌やWEB媒体で多数執筆。執筆に加え生活者対象のセミナー、家計相談も行っている。「お金の教科書」全7巻（小学校高学年から中学生向け金融・経済教育本）の著および監修。2012年より、市民団体「フオスター・フォーラム（良質な金融商品を育てる会）」にて、消費者教育を担当して活動中。

図表1：インターネットバンキングと金融機関店舗などでの取引の比較

	インターネットバンキング	金融機関の店舗、ATM
利便性	自宅や外出先から取引を行える 取引時間を気にする必要がない(取引によっては、翌営業日の取り扱いとなるが、申し込みは可能)	店舗やATMに出向く必要がある 取引できる時間帯が決まっている
取引の種類	金融機関によって、取扱内容は異なる *残高照会、入出金明細の照会、振込、定期預金の作成と解約ができる点は共通	幅広い取引を取り扱う *左記のほか、各種ローンの契約、保険の購入など
金利など		
定期預金など	相対的に高い	相対的に低い
住宅ローンなど	相対的に低い	相対的に高い
各種手数料	相対的に低い	相対的に高い
現金の入出金	ATMにて行う *自行ATMを設置しないインターネット銀行の場合は、提携するATMで取り扱う	店舗の窓口またはATMにて行う

スを提供しています。インターネットバンキング専用の口座は、インターネット支店と呼ばれる、店舗や窓口を持たないインターネット上の支店に開設します(すでに同じ金融機関に一般の口座を持っている人も、この口座を作らないとこのサービスを利用できません)。対面での取引に比べて人件費などが低く抑えられるため、一般の口座と比べると預金金利が高めに設定されて

いるなどの特徴があります。

●インターネット銀行のインターネットバンキング
実在の店舗を持たない金融機関(インターネット銀行)によって提供されるインターネットバンキングです。インターネット銀行には、都市銀行を母体にしたものほか、異業種からの参入もあり、それぞれに特徴のあるサービスを競い合っています。

相対的に金利の高い定期預金のほか、インターネットで申し込みができて金利の低い住宅ローンが人気を集めるなど存在感を増しています。口座開設の申し込みはインターネットを介し、全国から行えます。

インターネットバンキングで行える取引を確認しよう

実際に、どのような取引をインターネットバンキングで行えるのかは、金融機関によって異なります。具体的には、振込、残高照会、入出金明細照会を行える点は共通ですが、定期預金の契約・解約、外貨預金の契約・解約、投資信託の購入・解約、住宅ローンの申し込みや繰上げ返済、税金などの各種電子納付などは、取り扱っていない金融機関もあれば、取り扱いのない金融機関もあります。さらに、こうした取引だけでなく、住所変更などの届出をインターネットバンキングの画面から行える場合もあります。これから新たにインターネットバンキングを選ぶなら、各金融機

関において、自分のニーズにあったサービスが提供されているかどうかを確認しましょう。

手数料、預金金利、利用できるATMなどを事前に確認

先ほどご紹介したように、インターネットバンキングは、人件費や物件費が低く抑えられるため、窓口での対面やATMでの取引に比べると手数料や預金金利、借入金利が魅力的なものとなっています。自分のよく利用する取引を中心に、手数料や金利を比較して、経済的にも賢くインターネットバンキングを活用しましょう。例えば、ほかの口座への振込件数の多い人であれば、振込手数料の負担が小さいことを優先して選ぶとよいでしょう。また、預金で確実にお金を貯めたいのであれば、預金金利の高いインターネットバンキングを選ぶとよいでしょう。

ただ、現金の口座への出し入れはATMを介して行わなければならない点には留意が必要です。インターネット銀行は自行ATMを持たないので、コンビニATMなどの提携ATMを利用します。いずれのタイプのインターネットバンキングでも、一定

条件を満たせば提携ATMなどを手数料無料で入出金に利用できますが、その条件は金融機関によって異なります。インターネットバンキングの口座を使って「現金」の出し入れを頻繁に行うなら、使用できるATMの設置場所の多さ、手数料の安さという点に重きをおいて選択するとよいでしょう。

**取引明細は自分が
扱いやすい形で管理**

ところで、インターネット支店インターネット銀行のインターネットバンキングでは、原則として預金口座の通帳は発行されません。口座残高はインターネットバンキングの専用ページに入出金明細を表示して確認します。記録を残しておきたい場合は、入出金明細を印刷するか、入出金の記録データをダウンロードしておき、管理しやすい形で保存しておきましょう。多くの金融機関では、データをエクセルなどの表計算ソフトの形式にダウンロードできるようにしています。中には毎月末の残高や収支の推移をまとめて表示するなど家計簿的な機能を提供する金融機関もあります。こういった機

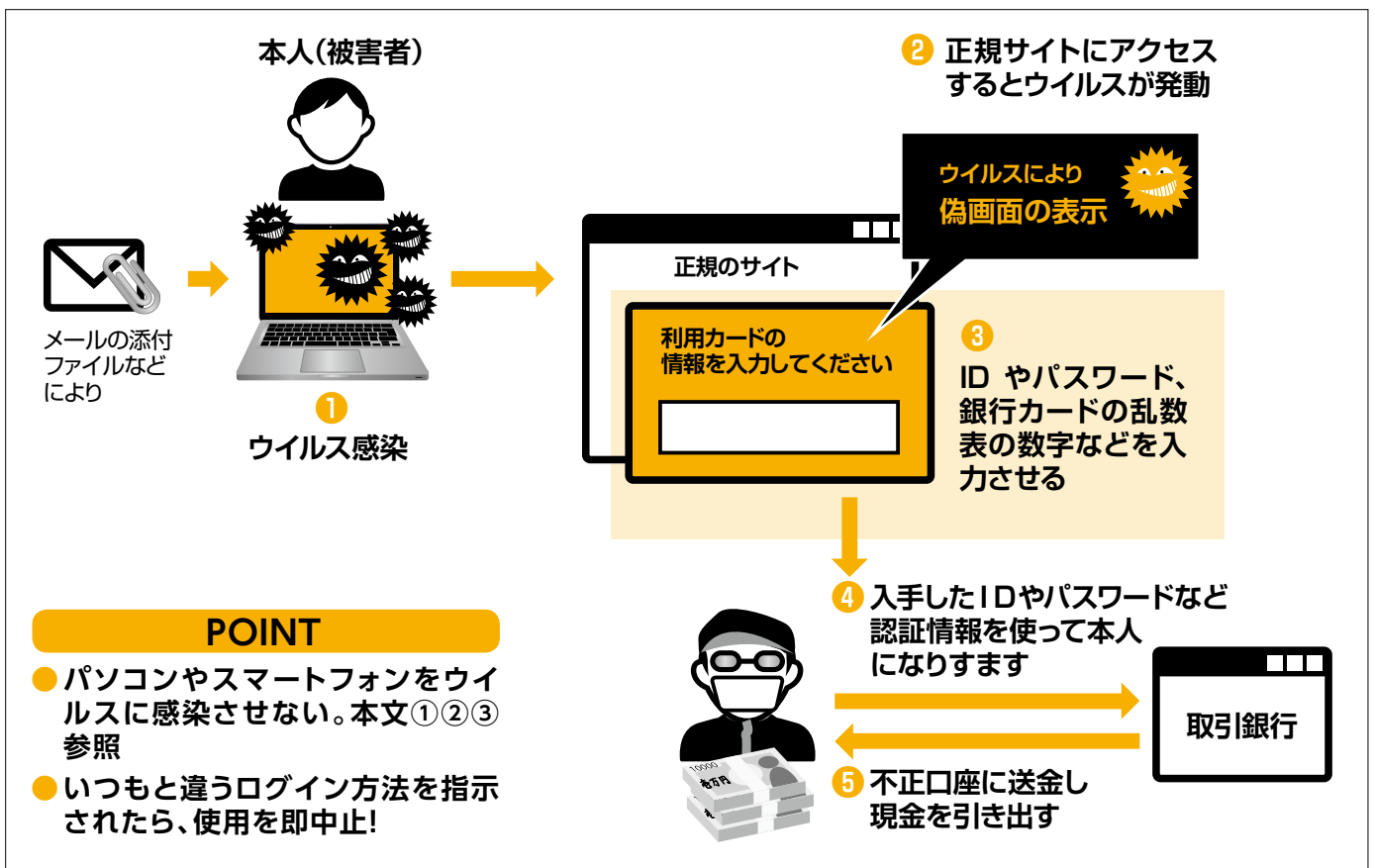
能も上手に利用すると家計管理が楽になるでしょう。

**口座開設の方法も
便利に**

全国銀行協会が2012年に行ったアンケート調査（「よりよい銀行づくりのためのアンケート」）では、インターネットバンキングを利用していない人にその理由を聞いています。その結果、30%弱の人が「口座開設の申し込み手続きが煩雑そうで面倒だから」と回答しました。

たしかに、いずれの方式でも、利用するには本人確認書類を添えての申し込みが必要ですが、最近では便利な申込方法も登場しています。スマートフォンから申し込みをした金融機関の専用アプリをダウンロードしたうえで、運転免許証などの本人確認書類を撮影して送れば、わざわざコピーを用意したり、郵送することなく申し込みが完了するというもの。また本人限定受取郵便を利用することで本人確認を行う銀行もあります。郵送の手間が省けるうえ、申し込みから利用開始までの時間も短縮されます。利用してみたい金融機関の手続きを調べてみてはいかがでしょうか。

図表2：手口1



安全な取引のために
気をつけたいことは？

実は、先ほどのアンケート調査では、「インターネットで取引すること、セキュリティ面で不安を感じるから」という理由でインターネットバンキングを利用しない人が48%に上るという結果になっていました。「ある日、口座のお金が無くなっていたらどうしよう」という漠然とした不安を持つ人が多いということでしょうか。警察庁の調査でも、インターネットバンキングにおける不正送金事犯が、2015年上半期に754件、15億4400万円に上ることが分かっています。また、被害の特徴として、信用金庫、信用組合にまで被害が拡大したこと、農業協同組合と労働金庫で被害が発生したことが指摘されています。

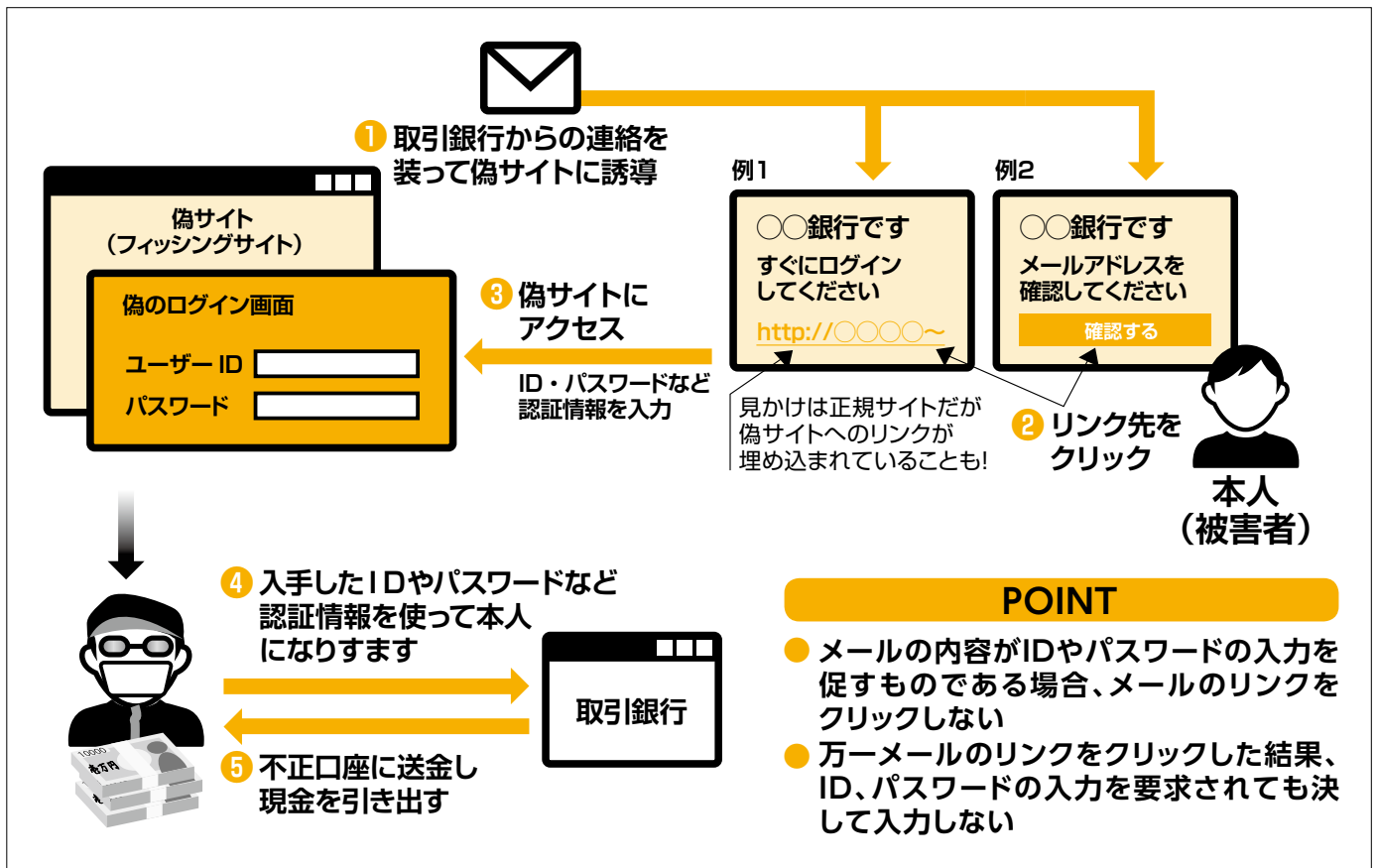
こうしてみると、「インターネットバンキングはやっばり怖い」という印象を持たれるかもしれませんが、主な「手口」ははっきりしていますし、それへの対策もシステム面、運用面で進んできています。私たちも、「どこにリスクがあるのか」、「何に注意すればいいのか」をしっかりと勉強して、イ

ンターネットバンキングを上手に
使っていくという意識を持つこと
が大事です。
では、主な「手口」と対策につ
いて整理しましょう。

手口1：パソコンやスマートフォンをウイルスに感染させてパスワードなどを盗み取り、不正な送金を行う（図表2）
手口2：銀行を装ったメールを送るなどして偽のインターネットバンキングのサイト（フィッシングサイト）に誘導し、入力させたパスワードなどを使って、不正な送金を行う（図表3）

- ① パソコンやスマートフォンにはウイルス対策ソフトを導入し、常に最新の状態に更新しておく
- ② パソコンのOSやウェブブラウザなどのソフトウェアを常に最新の状態に更新しておく
- ③ 不審なサイトへのアクセスや不審なメールの開封は行わない
- ④ インターネット上の各種サービスにおいてパスワードやIDを使い回さない
- ⑤ 不審な入力画面が表示されたら、パスワードやIDを入力せず金融機関などに連絡する

図表3：手口2



**スマートフォンと連動
させるセキュリティ対策も**

これらに加え、各金融機関が提供するセキュリティ対策も活用しましょう。

- 金融機関が配布するセキュリティソフトを導入する
- ワンタイムパスワード（一定時間おきにパスワードが変更され一度使うと無効になるもの）を利用する
- 取引を携帯電話やスマートフォンにメールで通知する

取引後すぐにスマートフォンにメールで通知が入れば、身に覚えのない送金に早く気づくことができます。

取引内容をスマートフォンにメールで通知するのみならず、指定されたスマートフォンで許可しない限り取引が実行されない仕組みのスマートフォンアプリを配布する金融機関もあります。

取引を始める前に、金融機関のセキュリティ対策についても確認しておきましょう。

**万一、被害に遭った場合も
無過失なら全額補償**

対策をとっていたのに、不正送金の被害に遭ってしまったらどうなるのでしょうか？

全国銀行協会では、インターネットバンキングの被害の補償について取り決めを行いました。これによると預金者（個人）に過失がなければ、銀行に過失がなくとも銀行が全額

を補償することとしています。速やかな通知、捜査当局への協力などをその条件としています。また預金者に過失があった場合にどこまで補償するかは個別対応となっています（図表4）。同協会による会員銀行へのアンケート結果によれば、2008年度以降の補償率は90%以上です。

なんだかあやしいと思ったら、取引金融機関に相談、被害に遭ったら、取引金融機関と警察に直ち

図表4: インターネットバンキングでの不正な払戻しに関する補償基準

補償対象	個人のお客さま
補償要件	金融機関への速やかな通知 金融機関への十分な説明 捜査当局への被害事実等の事情説明（真摯な協力）
補償基準	預金者無過失 ⇒ 全額補償
	預金者過失あり・重過失 ⇒ 個別対応
その他	インターネットの技術やその世界における犯罪手口は日々高度化しており、そうした中で、各行が提供するサービスは、そのセキュリティ対策を含め一律ではないことから、重過失・過失の種類や、それに応じた補償割合を定型的に策定することは困難である。したがって、補償を行う際には、被害に遭ったお客様の態様やその状況等を加味して判断する
その他	金融機関への通知が被害発生日の30日後まで行われなかった場合、親族等による払戻の場合、虚偽の説明を行った場合、戦争・暴動等の社会秩序の混乱に乗じてなされた場合は補償を行わない

「インターネット・バンキングに係る補償の対象・要件・基準等について」(全国銀行協会ホームページ)より抜粋

犯罪に遭った場合などの連絡先

- あやしいと思ったら相談
 - ・ 取引金融機関
 - ・ 全国銀行協会相談室
<http://www.zenginkyo.or.jp/adr/about/>
 - ・ 銀行とりひき相談所
<http://www.zenginkyo.or.jp/abstract/clinic/>
 - ・ 最寄りの警察、消費生活相談窓口
- 被害に遭ったら直ちに連絡
 - ・ 取引金融機関と警察

に連絡を取りましょう。

金融機関店舗やATMに行かず取引ができるインターネットバンキングは、子育て中の主婦、多忙な会社員、病氣・けがなどで外出が難しい人、自宅で過ごす時間が長い人、高齢者、銀行店舗やATMまで遠い人など、さまざまな立場、状況の人が利用できる便利な取引手段です。しかも、振込手数料が安い、定期預金の金利が高いなどのメリットもあります。しかし、インターネットバンキングを使うには、セキュリティ対策をしっかり行っただうえで、上手に、かつ安全に活用することをおすすめします。